

幽玄の世界を堪能

登米で伝統の秋まつり



伝統の登米能「羽衣」を奉納

9月17日、18日、330年の伝統を誇る「とよま秋まつり」(登米秋まつり)協賛会主催)が開催されました。17日の宵祭りでは、百々手



山車が町内を練り歩きました

式を皮切りに、山車の審査会や薪能が行われました。薪能では、530人の観衆が集まり、幽玄の世界を堪能しました。18日の本祭りでは、山車12台とみこし4台が町内を練り歩きました。また、岩手県住田町の五葉山火縄銃鉄砲隊による演武や、とよま囃子踊りパレード、神楽大会なども行われ、多くの人々にぎわいました。優れた山車に贈られる今年の風流大賞は、九日町町内会が受賞。また、みこし部門の金賞は、八丁町町内会に決定しました。

災害への備え地域でしっかりと

南方で自主防災訓練



通報訓練を真剣に取り組みました

南方町内で自主防災訓練(行政区自主防災互助会主催)が実施されました。8月7日、農産物出荷総合センターで新高石区・高石区9月4日には、大袋区集会所などで大袋区が実施し、共に

百人以上の地域住民が参加しました。この訓練は、地域住民が主体的に開催。市消防署西出張所職員、南方町消防団・婦人防火クラブ員などが指導に当たりました。地震発生を想定して行われた避難・情報収集訓練では、落ち着いた行動で避難所へ集合。班長を中心に近所の被害状況を確認しました。また、寝たきり老人の救出訓練や応急手当、通報訓練など、参加した住民皆さんは、本番さながらの訓練を行いました。

伝統の行列が悠々と練り歩く

東和で綱木之里大名行列

9月18日、東和町米川で、綱木之里大名行列が披露されました。この大名行列は、永禄7年(1564年)に始まったと伝えられ、市の無形民俗文化財に指定されています。行列の一行は、八幡神社で祈禱を済ませ、ホラ貝と火花を合図に出発しました。はかま姿の露払いを先頭に、騎馬先陣、道中奉行、挟み箱や毛やりを持ったやつこ、天狗と獅子、おみこし担ぎ、稚児行列の総勢百人が市街地を練り歩きました。また、威勢の良い掛け声とともに毛やりを相手方に投げる「お取り替え」が披露されると、たくさんのお見物客から拍手が沸き起こりました。訪れた見物客は、さわやかな秋晴れのもと行われた伝統行事を楽しみました。



掛け声を合わせながら歩く大名行列

伝統芸能「神楽」を熱演

米山で登米市神楽大会



飯士井神楽保存会（東和町）による「四国熊谷城」

9月4日、米山勤労者体育館で、第1回登米市神楽大会（市神楽実行委員会主催）が開催されました。地域の伝統芸能保存団体が合併に伴い、新たに登米市民俗芸能協会（小野寺国芳会長）

を設立し、大会を運営しました。

出演者の中には、若い人の姿もあり、畑岡神楽保存会（南方町）の後藤孝孝さんは「昔から伝わる地域の神楽に魅了され、保存会に入会しました。これからも私たち若い年代で伝承していきたい」と話していました。

大会は、市内15の神楽保存団体が「一の谷合戦」「地神四代」「義経東下り」など、16演目を披露しました。

会場に訪れた300人以上の観客は、迫力ある舞を楽しんでいました。

絵本原画で楽しむ恐竜の世界

迫で絵本原画展

9月8日から11日までの4日間、登米祝祭劇場を会場に、第1回登米市絵本原画展（市教育委員会、迫図書館、登米図書館主催）が開催されました。

会場には、恐竜の絵本に定評のある黒川みつひろ氏（東京在住）の作品「恐竜トリケラトプスとアロサウルス」「恐竜図解新辞典」など、鮮やかな原画約40点が展示されま

した。

また、宮城県図書館が所蔵している絵本300点も展示期間中は、迫図書館などで活動している、読み聞かせボランティア「だっこ・ラッコ」による絵本の読み聞かせもありました。

初日には、市内の幼稚園と保育所の園児たちが訪れ、期間中も多くの家族連れなどにぎわいました。

ボートや球技で楽しく交流

中田で「やまがっこ」



北上川で手こぎボートやカーンに挑戦しました

8月24日、上沼ふれあいセンターなどで、「やまがっこ」（上沼コミュニティ運営協議会主催）が開催されました。この催しは、4月に3校を

統合して新たに誕生した上沼小学校（千葉正校長）の児童の交流、家庭・地域・学校の結びつきなどを深めるために開催。220人の児童のうち、80人が参加しました。

3年生以下の子どもたちは、ジュニアリーダー「ぎやらごーず」と一緒に、室内でゲームやドッジボールなどで遊びました。また、4年生以上は、北上川で舟下りに挑戦。上手に進めず苦労しながらも協力してボートをこぎきりました。

昼食は、焼きそばやかき水などを食べ、楽しい一日を過ごしました。



ジュニアリーダーとゲームで楽しみました